

会 議 録

- 会議名称 令和８年度第１回渋川市環境審議会
- 日 時 令和８年８月１７日（月） 午後２時～午後４時
- 場 所 本庁舎 大会議室
- 出席者 《審議会委員》
萩原会長、渡部副会長、飯塚(哲)委員、中島委員、丸山委員、角田委員、金井委員、坂田委員、星野委員、島委員、秋山委員、鈴木(喜)委員、鳥山委員、今井委員、齋藤委員、田部井委員、飯塚(秀)委員、奥泉委員、鈴木(真)委員
以上１９人
《渋川市》
副市長、市民生活部長、環境課長、環境政策係長、環境政策係員
- 欠席者 《審議会委員》
中山委員

概 要

１ 開会

２ 委嘱状交付

３ あいさつ

４ 自己紹介

５ 議事

（１） 会長及び副会長の互選について

満場一致で次のとおり決定した。

会 長 萩原 豪 委員

副会長 渡部 芳美 委員

（２） 渋川市地球温暖化対策実行計画2027-2030の骨子（案）について

資料に基づいて、事務局より説明。

第２章「計画の基本的事項」の「４ 対象とする温室効果ガス」について、一部訂正。パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素については、区域施策編では対象とする。計画（案）の作成時において、修正する。

質疑 1 第 4 章「市全域における地球温暖化対策（区域施策編）」の「2 目標達成に向けた取組」の「（3）低炭素型の環境負荷の少ないまちづくり」の主な取組の中に、「農地・農業用水等の保全、遊休農地等の有効利活用」とあるが、これは耕作放棄地や生産力の低い農地等に太陽光発電施設を設置するというような内容を含むか。

答弁 1 含まれると考えている。

質疑 2 第 4 章「市全域における地球温暖化対策（区域施策編）」の「2 目標達成に向けた取組」に、「（1）再生可能エネルギーの導入及び利用促進」とある。再生可能エネルギーの導入にあたっては、メリットだけでなく、デメリットも併せて示していただきたい。両方の視点から、市民や事業者へ周知し、取組を推進する必要がある。

答弁 2 計画（案）の作成時において、考慮する。

質疑 3 渋川市内には、メガソーラー（大規模な太陽光発電施設）が 2 か所ある。新たなメガソーラーの建設の予定はあるか。

答弁 3 現時点で、環境課へ事業者から新規メガソーラー設置の相談はないため、予定はない。

質疑 4 第 4 章「市全域における地球温暖化対策（区域施策編）」の「1 市全域の温室効果ガスの削減目標」の数値は何を根拠としているのか。

答弁 4 環境省が公表している「自治体排出量カルテ」を基に算出している。第 3 章「市全域における温室効果ガス排出量の状況」の「（2）市全域における温室効果ガスの排出量の推移」のグラフに示している。削減率は、国の地球温暖化対策計画との整合を図り 46%とし、目標値を計算している。

質疑 5 第 5 章「市有施設における地球温暖化対策（事務事業編）」の「1 これまでの取組」の「（1）温室効果ガス排出量の状況」の表について、電気の排出実績が、令和 5 年度から令和 7 年度にかけて増加している。増加の要因は把握しているか。

答弁 5 具体的な要因について、分析できていないため、把握できていない。

質疑 6 街路樹の管理が粗雑だと感じる。緑化の推進はどうなっているのか。

答弁 6 街路樹の担当部署に、ご意見を伝える。緑化の推進の内容について、担当部署と調整し、検討していきたい。

質疑 7 燃えるごみとプラスチックごみの袋を分けるのが負担という声があ

る。また、清掃業者の方から結局焼却すると聞いたという話もある。そのため、分別をしていない人もいるという状況がある。プラスチックごみを分別したことによる効果を分かりやすく周知すると、もっと浸透していくのではないか。

答弁 7 分別して回収したプラスチックごみが焼却されるというのは一部誤解がある。いくつかのリサイクルの段階を経た後、最終的に残った部分については焼却となる。分別による効果の周知については、広報等で周知するよう検討する。

質疑 8 第 1 章「背景」の「2 地球温暖化対策を巡る国際的な動向について」記載されているが、国際的な枠組みに参加していない国のことについて言及されていない。

答弁 8 ご指摘があったように、こうした国際的な動きがある中、温室効果ガスを多く排出されている国がある。今回の記載については、世界的に温室効果ガスを減らしていくという国際的な合意に日本が参加し、国として地球温暖化対策推進法を施行し、国が取り組むこと、都道府県が取り組むことと細分化してきて、市としてはどのように取り組んでいくのかという流れの背景である。

質疑 9 第 4 章「市全域における地球温暖化対策（区域施策編）」の「2 目標達成に向けた取組」で、取組内容が列挙されているが、なぜその取組を行うのか、理由をしっかりと説明した方がよい。第 1 章「背景」の「6 市民意識調査の結果」や第 3 章「市全域における温室効果ガス排出量の状況」の「2 部門別排出量」から、こうした意見があるからこれに取り組む、こうした結果があるからこの取組を行うというような記載が必要である。

答弁 9 計画（案）の作成時において、考慮する。

質疑 10 第 5 章「市有施設における地球温暖化対策（事務事業編）」の「1 これまでの取組」の「（1）温室効果ガス排出量の状況」の表について、事務事業編では下水処理の項目があるが、第 3 章、第 4 章の区域施策編では、下水処理に関しての記述がない。

また、事務事業編の具体的な取組内容に、下水処理の対策がない。

答弁 10 区域施策編において、下水処理の項目は、廃棄物部門に含まれていると認識している。分かりやすいように記載内容を検討する。

事務事業編での下水処理の対策について、検討する。

質疑 11 第 5 章「市有施設における地球温暖化対策（事務事業編）」の「1

これまでの取組」の「（１） 温室効果ガス排出量の状況」の表について、灯油の排出実績が、令和７年度は大きく増加している。増加の要因は把握しているか。

答弁11 具体的な要因について、分析できていないため、把握できていない。

質疑12 プラスチックごみの回収が月２回であるが、回数を増やすことはできないか。また、プラスチックごみの袋は軽いため、強風で飛んでしまう。対策を検討しているか。

答弁12 回収の回数は、アンケートの結果や費用等を検討した結果、４回の回収は困難であるということから、月２回で実施している。ごみ袋が飛ばないための対策は、小さくしてなるべく多く袋にいらしてもらいようにお知らせしている。または、費用を負担いただくが、集積所に設置するネットを購入していただきたい。

質疑13 今回、市民や事業者が取り組む地球温暖化対策（区域施策編）と市役所が取り組む地球温暖化対策（事務事業編）が合わさっていて、分かりづらい。しっかりと区別した方がよいのではないか。

答弁13 計画（案）の作成時において、考慮する。

質疑14 削減目標に用いている数値、温室効果ガスの排出量の現況で用いている数値について、どのように算出されているのか。

答弁14 削減目標は、国の温暖化対策計画に即した削減率により設定している。また、各温室効果ガスの排出量の根拠は、自治体排出量カルテを基にしているという説明のみとなっている。計画（案）の作成時において、自治体排出量カルテが用いている計算方法について、記載する。

質疑15 第５章「市有施設における地球温暖化対策（事務事業編）」の「３ 目標達成に向けた渋川市役所の取組」の「（２） 具体的な取組内容」の「①市有施設の省エネに資する取組」の「施設・備品の適正管理」について、稼働時のことが記載されているが、廃棄時の適正処理についても盛り込んでいただきたい。

答弁15 計画（案）の作成時において、検討する。

質疑16 第４章「市全域における地球温暖化対策（区域施策編）」の「２ 目標達成に向けた取組」について、温泉熱を利用した発電や小水力発電等を検討し、より積極的な取組内容になるよう検討していただきたい。

答弁16 計画（案）の作成時において、検討する。

6 その他

令和8年度第2回渋川市環境審議会の日程について
令和8年10月20日（火）開催予定

7 閉会

－ 以上 －